船橋支部会報
6．7
立教182年
2019年・令和元年
船橋支部長　下藤　吉信

ふなばし

会報
第27号

発行/天理教船橋支部　編集/広報部会報係
E-Mail/korin29yoshi3@gmail.com

「経験は徳分」　茂木智広

今年2月に第2子を授かった時に、妻が産後の入院のため1週間1歳の長女と二人きりの生活をさせていただきました。
朝夕の食事の用意、保育園の送迎、掃除、洗濯、お風呂に寝かしつけ。1週間の母親体験は疲労困憊になりながらも人生で今しか味わえない思い出に残る貴重な経験でした。

青年会長・中山大亮様が青年会本部例会においてこのようなお話をしてくださいました。
ある青年さんが布教熱心な教会へ住み込んでいる際、会長さんとお子さんの不登校で悩む、おたすけ先へ伺ったそうです。
実はこの青年さん自身も、昔不登校で悩んでいた経験があり、会長さんは親御さんへ自身の経験を話してほしいと頼んだそうです。これまで自分の過去にコンプレックスを抱いていた青年さんでしたが意を決して話をさせていただくと普段、話を聞いてくれなかった親御さんが真剣に話を聞いてくれたそうです。自分に出来るおたすけの方法を教えていただき、過去の苦い経験が自信に変わったそうです。
このことを通して経験というのは、辛かったりしんどかったり色々なことがあるけれど、全て教祖からお与えいただいた徳分であり、その徳分を活かし自分にしか出来ないおたすけに動くことで、あの時の経験が良かったと思え、その姿を神様もお喜びくださるんではないか。そんなお話をしてくださいました。

「おふでさき」の号外に、
にちへに心つくしたものだねを　神がたしかにうけとりている
しんぢつに神のうけとるものだねわ　いつになりてもくさるめわなし
たんへとこのものだねがはへたなら　これまつだいのこふきなるそや
（毎日の生活で心を尽くした経験は、神様が受け取ってくださり、それが物種となれば、神様がしっかりと受け取ってくださり、いつまでも腐ることなく、末代先々のものとなる。）

私たち若年層は、様々な経験に果敢に挑戦し、与えて頂いている今を真剣に心尽くし、経験から得た徳分を自分にしか出来ないおたすけと捉え活かしていくことが大切なのだと学ばせていただきました。
さあ、今日も娘と一緒にお風呂に入ろう。

船橋支部の情報をあなたの
携帯電話にメールでお届けします。
こちらのQRコードからご登録ください。